





	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																					
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
32	地域貢献・社会貢献	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	・役員が地域に居住し密着。地域の各種団体に所属。地域との対話・会議・報告会などを実施し、対話に基づき、事業地域への影響の把握を行い、改善に努めている。地域の各種イベントに積極的に協賛。					4					9		11	12			14	15		17			
33		【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	・タンザニア支援としてNPOムワングザ・ファンデーションへの取組(2013年パートナーシップ大賞受賞)・一般財団法人CWニコル・アファンの森財団へ生物多様性を旨とした豊かな森づくりを支援している。 ・こども食堂への商品提供。					4								11				14	15		17		
34		【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用(地消地産、地産外販)している	チャレンジ	・地域資源を使った新商品を開発(例:飯綱町、アップルブランデー)し、全国に発売している。 ・長野県内の原材料を積極的に使用し、商品化している。 ・地域雇用を創出している。										8	9		11	12	13							
35		【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	・経営理念が明文化されており、広く浸透している。 ・成長セミナー等、経営理念の学びの機会が設けられている。 ・社内アンケートにて、「自社の強み」の設問に対して「経営理念の共有」が1位。										8	9										17	
36		【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	・コンプライアンス徹底のため、適法な業務遂行を含む、全社的な規定を策定、内部管理体制を構築済。リスク&コンプライアンス委員会を毎月開催。 ・専門家による勉強会を実施。																					16	
37		【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	・管理部門担当者役員、CSR推進者を任命している。 ・専門的な知見を持つ複数の社外顧問により、適切な助言がなされる体制が構築されている。																					16	
38	組織体制	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	基本	・経営理念「あらゆる人々に開かれたオープンな会社」を目指しており、適宜、会議や報告会にてステークホルダーと対話している。 【予定】活動を周知するためにHPを通じて開示している。																					16	17
39		【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・リスク&コンプライアンス委員会にて、事例研究、知識拡充と周知を徹底。 ・ハザード(リスク)マップを活用してリスクの特定・評価を行っている。																						16
40		【社会的責任】 ・CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	・CSR推進者を任命している。 ・社外取締役、監査役を設置し、ガバナンス体制を強化している。 ・SDGsの取組を強化している。 【予定】 ・CSR方針を策定予定。																						16
41		【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・2018年9月BCP策定済(年に一度更新)、定期的な訓練を実施。 ・物流拠点の地域分散。 ・米國・オレゴン州の食品加工工場により、地域分散が図れている。											9			11			13	13.1			16	
42		【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・2018年6月、創業者から事業承継。 ・若い人材を積極的に登用。 ・海外赴任により経験値を上げ、経営幹部を育成する環境を構築。											8	9										17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17									
一般財団法人CWニコルアファンの森財団への支援	①生物多様性を旨とした豊かな森づくりを支援②馬の力を借りたワイン用ぶどう畑の開墾。								7																13	15	
「ワイン用ぶどう」残渣の活用	大手化粧品メーカーにて、ぶどう残渣を活用した化粧品の商品化を図る。									9				12													

【記載留意事項】

- ・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。(今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。)
- ・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上(個人事業主等)、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。
- ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。

また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等(※)を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。

(※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など)